図画工作科学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
　　第５校時　13：30～14：30
学校名　小学校
対　象　第４学年
会　場　体育館
授業者　〇〇　〇〇

１　題材名　「アルミ生物研究所」　Ａ表現（１）イ（２）イ、Ｂ鑑賞（１）ア
共通事項（１）ア、イ

２　題材の目標

（１）「知識及び技能」に関する目標
- 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かる。
- 想像した不思議な生物を立体に表す活動を通して、アルミ箔や型取りをするための容器を適切に扱うとともに、前学年までの立体や工作などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

（２）「思考力・判断力・表現力」に関する目標
- アルミ箔を様々な形に変える活動を通して、感じたことや想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
- 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつ。

（３）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標
- 進んでアルミ箔を変形させたりそれらを組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

３　評価規準

ア　知識・技能	イ　思考力・判断力・表現力	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 ②　想像した不思議な生物を立体に表す活動を通して、アルミ箔や型取りをするための容器を適切に扱うとともに、前学年までの立体や	①　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、アルミ箔を様々な形に変える活動を通して、感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。	①　つくりだす喜びを味わい進んでアルミ箔を変形させたりそれらを組み合わせたりして立体に表す学習活動に取り組もうとしている。 ②　つくりだす喜びを味わい主体的に鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

工作などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	②　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	

4　指導観

（1）　題材観

本題材は、小学校学習指導要領(平成 29 年告示）図画工作

〔第３学年及び第４学年〕　２　内容

A　表現

（1）表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ　絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。

（2）表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ　絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

B　鑑賞

（1）鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

（1）「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。

イ　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

を受けて設定した。

本題材は、アルミ箔の可塑性や様々に形を変化させることができる材料の特徴に着目させ、いろいろな容器で型取りして変形させたアルミ箔からイメージを広げ、様々な表現技法と組み合わせながら不思議な生物を想像して立体に表す題材である。

（2）　児童観

第４学年の児童の多くは、図画工作科の授業に意欲的に取り組み、つくったり描いたりという造形活動にも関心が高く、普段の製作でも自分なりに工夫をするなどして活発に活動している。また、新しい材料に触れたり、自分で手を動かしたりしながら表すことに喜びも感じている。第

４学年の第１学期に行った土粘土で「自分だけの守り神」をつくる活動では、土粘土の感触の心地よさを感じ取りながら、立体的につくるための技能を生かし、思い思いの作品をつくることができた。また「○○から守ってくれる守り神」など、自分で主題を決め、アイデアスケッチでの構想を基に見通しをもちながら粘り強く製作を進めていくことができた。さらに、第３学年の第３学期に行った造形遊び、「カラフルバンドで図工室が大変身！」の学習で身に付けた「身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付く力」や、「形や色の感じをイメージしながら活動する力」は、本題材においても生かすことができる資質・能力である。本題材では、前学年までの既習事項を生かしながら、アルミ箔や空き容器と十分に関わる中で、発想をして、自分がイメージした空想の生物をつくることができるようにしていく。本題材を通して、一人一人の児童が材料の感触や特徴を生かしながら、自分のイメージした生物を楽しみながら表すことができるようにしていく。

（３）　教材観

ア　アルミ箔は、はさみを使わなくても手でちぎることができ、児童にとって軽くて扱いやすい材料である。触ったり丸めたりする時に音が出たり、キラキラと銀色に輝いて見えるなど、児童にとって魅力的な材料を用いることで学習意欲を引き出していく。

イ　材料に関わることで得られる感じを大切にするように伝える。アルミ箔のもつ可塑性や質感などの特徴を生かしながら、何度も表現を試しながら表し方を工夫して、自分なりの表現ができるように指導していく。

ウ　作品展示ができるよう、移動式パネルにスプレー糊を吹き付けた布を張っておく。スプレー糊を吹き付けることで適度な粘着力が生まれ、アルミ箔を何度も貼ったり剝がしたりできるようにする。また、児童がつくりながら作品を貼ることができるようにすることで、児童一人一人の表現がさらに広がるようにする。壁面に貼れない作品は、活動場所の前方にある展示台に置くことを伝える。移動式パネルに張る布の色や展示台に敷く布の色は、銀色のアルミ箔が映えるように黒色の布を用意する。

エ　共用の材料コーナーを活動場所の中央に設定し、各自が自由に選択して用いるようにする。型取り用容器に関しては様々な形や大きさ、凹凸のあるものを用意し、イメージに合わせて多様な表現ができるよう、豊富に用意することで児童の表現の幅が広がるようにする。

　目や口、鼻など生物の特徴を表すための細部表現については、補助的に油性マジックペンを使用してもよいこととする。

オ　完成した生物に名前を付け、生物の特徴や生息地などを考えてキャプションカードに記入させることで、児童一人一人のイメージをさらに深めさせていく。

カ　材料と用具

(ｱ)　児童が用意するもの

　アルミ箔（１本)、はさみ、筆記用具、タブレット端末

(ｲ)　授業者が用意するもの

　アルミ箔、型取り用容器（大・中・小)、はさみ、ラジオペンチ、箸、竹串、綿糸、木べら、スプーン、フォーク、油性マジックペン（12 色)、スプレー糊、大型スクリーン（１台)、長机（３台)、移動式パネル（７枚)、布（黒色８枚)、キャプションカード、ワークシート、参考作品、パソコン（１台)、ホワイトボード（１台)、懐中電灯（児童数分）

５　年間指導計画における位置付け

	題材名	学習内容
第２学年	スイーツパラダイス	紙粘土の触り心地を味わい、丸めたり、伸ばしたりするなど、紙粘土に働きかけながら、表したいスイーツのイメージに合わせて形や色、飾り付けなど工夫して立体に表した。
第３学年	カラフルバンドで図工室が大変身！	色画用紙の帯を並べたり、組み合わせたり、つないだりした紙の形や色、活動する図画工作室の感じを基に、自分のイメージを広げながら、どのように活動するか考え、活動を工夫してつくった。
第４学年	伝説の守り神	「自分だけの守り神」を主題に、手の感覚を十分に働かせて、土粘土のもつ特徴を生かしながら、用具を適切に扱うとともに表し方を工夫して立体に表した。
	アルミ生物研究所（本題材）	アルミ箔を変形させることでできる形のよさや面白さから、不思議な生物をどのように表すかを考え、表したいことに合わせて不思議な生物の表し方を工夫して立体に表す。
第５学年	針金アート	アルミ針金の特徴を生かして用具を適切に扱うとともに、針金の形を工夫して変化させたり、できた形を組み合わせたりしながら表し方を工夫して立体に表す。
第６学年	使って楽しい焼き物	焼成用の粘土を使って、ひもづくりや板づくりの技法を組み合わせたり形を工夫したりして、用途や使用目的を考えながら実際に使える焼き物を工夫してつくる。

６　題材の指導計画と評価計画　（全３時間）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準		評価方法等
			内容	記録	
第１時 (30 分)	アルミ箔を変形させることでできる形のよさや面白さに気付くとともに、手や体全体を十分に働かせて、表したいことに合わせて表現できるよう用具の使い方やポイントを理解する。	・　学習内容を知る。 ・　「アルミ研究会」と称して、アルミ箔を変形させたり、それらを組み合わせたりしながらつくることを楽しみ、アルミ箔だけでできる立体表現を考える。 ・　形を自由に変えることができるアルミ箔の可塑性や質感を理解する。	ア②	○	活動の様子の観察
第２時 (60 分) 本時	アルミ箔を変形させることでできる形のよさや面白さから、不思議な	・　本時の題材名と学習内容を知る。 ・　活動場所の確認や、材料や用具の扱いについて確認する。 ・　アルミ箔を変形させることでできる	イ①		活動の様子の

	生物をどのように表すかを考え、表したいことに合わせて不思議な生物の表し方を工夫して表す。	形のよさや面白さから、不思議な生物をどのように表すか考える。 ・　アルミ箔の特徴を生かし、表し方を工夫して創造的に表現する。 ・　思い付いたことや工夫したことを交流しながら、さらに表現していく。	 ア① ア② ウ① イ②	 ○ ○	観察・作品 活動の様子の観察・作品 活動の様子の観察・作品
第３時 (45 分)	鑑賞活動を通して、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。	・　作品の仕上げをする。 ・　つくった生物の名前や特徴などをキャプションカードに記入して作品横に掲示する。 ・　照明を暗くした図画工作室で「ふしぎ生物発見隊」と称した鑑賞会をする。 ・　照明を明るくした図画工作室で、児童一人一人がタブレット端末を用いて、自分や友人の作品を写真で記録する。 ・　タブレット端末上のワークシートに気付いたこと、工夫したことなどを記入して全体で共有し、活動を振り返る。	 イ② ウ②	 ○	 活動の様子の観察 活動の様子の観察・発表 ワークシート

7　指導に当たって

（1）　指導内容や方法、学習形態等について、工夫したこと

児童が柔軟な想像力を発揮できるようにするために第１時では、材料に十分触れ合うことができる時間を確保する。第２時（本時）の表現の段階では、アルミ箔を触ったり空き容器で型を取ってみたりする中から発想を生み出し、表現が広がっていくようにする。また、アルミ箔という材料だけでも切ったり、しばったり、組み合わせたりしていろいろな表現ができるということを児童自身が活動の中から気付けるようにする。さらに、手や足などの細部の表現方法についても接着剤やテープなどを使用せず、切り込みを入れたり、ひねり出したりするなどしてアルミ箔の特徴を生かしながら多様な表現方法を考え、工夫して立体にしていけるように指導する。そして、児童の活動はできるだけ見守るようにし、途中で悩んでいる児童がいれば、前時の作品を参考に指導するなどして、既習事項を生かして取り組んでいけるようにする。

第３時の鑑賞会では図画工作室の照明を暗く設定し、懐中電灯を使いながら作品を照らし出す。図画工作室を探検しながら、自分がつくった生物が住んでいる世界を想像できるようにし児童一人一人が楽しんで鑑賞しながら、自分や友人の表現のよさやアルミ箔のもつ材料の美しさについても見付けられるようにする。

（2）　授業力の６要素の教材解釈、教材開発について

授業力自己診断シートの結果、授業力の６要素の中にある「児童が自分で考え、解決していく授業展開をしている」という項目に課題があることが分かった。そのため本題材を通して、児童

が自分で材料のよさや効果的な用具の使い方を見付けだす活動にしていく。

第１時の活動は、アルミ箔の質感や特徴を感じながら様々な表現を考えていけるようにする。児童自身がつくりながら発見し、アルミ箔を変形させてできた形から面白い生物をイメージしてつくっていくことができるよう、一人一人の児童が自己決定を繰り返しながら自信をもって表現していくことができるように指導していく。

（３）　班テーマ「身に付けさせたい力を明確にし、一人一人が学びを実感できる指導の工夫」

本時（第２時）において授業者は、児童同士の対話や製作を通して相互鑑賞が生まれるようにファシリテーター役となり、その都度、表現の工夫を取り上げて紹介することで児童の発言や発想が広がるようにし、製作の指針も示していくことで本時のめあてを意識した活動を促していく。

第３時では全員の作品をじっくり鑑賞する時間を設定することで、児童一人一人に、友人の表現の意図や工夫、作品のよさを感じさせるようにする。また、タブレット端末上のワークシートでも振り返りを行い、全体共有する。まとめでは、授業者が本題材での活動を価値付けることで、児童一人一人が自分の表し方に自信をもち、自己の成長や学びの深まりを実感できるようにする。

８　本時（全３時間中の第２時）

（１）　本時の目標

アルミ箔を変形させることでできる形のよさや面白さから、不思議な生物をどのように表すかを考え、表したいことに合わせて不思議な生物の表し方を工夫して表す。

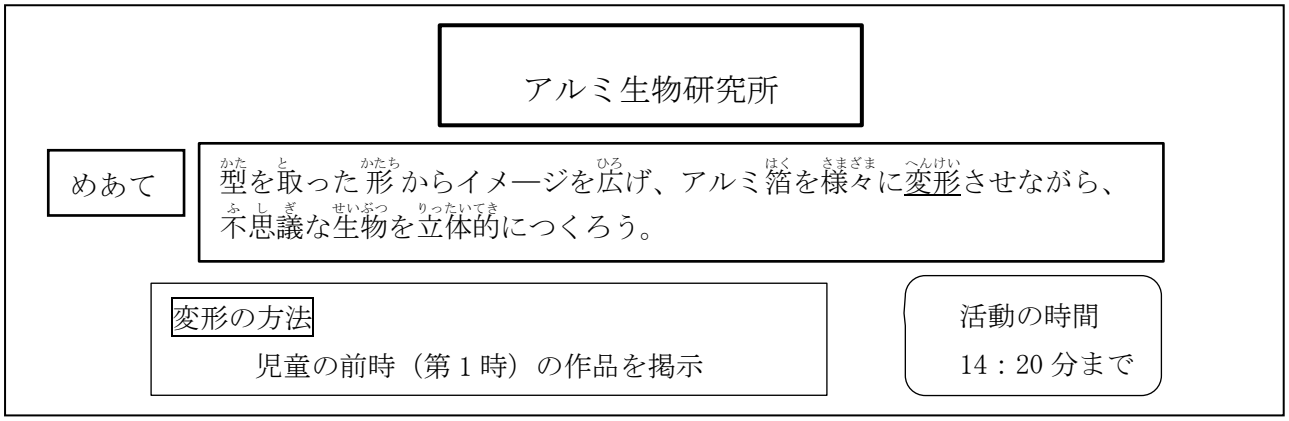
（２）　本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入15分	・　前時の学習を振り返る。 ・　本時のめあてと学習内容を知る。	・　前時の活動の様子や作品を大型スクリーンに映し出し、様々に変形させることができるアルミ箔の特徴について振り返る。 ・　本時のめあてをホワイトボードに提示し、口頭でも確認する。 ・　本時は、アルミ箔という材料だけで、オリジナルの生物を立体的につくることを伝える。	
	型を取った形からイメージを広げ、アルミ箔を様々に変形させながら、不思議な生物を立体的につくろう。		
	「前回、型を取ったアルミ箔を見ましょう。生物のどのような部分に見えますか。」 〔予想される児童の反応〕 □　横から見ると口を開けているように見える。 □　皿で型を取ったものは体に見えてねじってできた形は足に見え	・　製作の見通しがもてるように、前時の成果物である型を取ったアルミ箔を児童に見せ、生物のどのような部分に見えるか問いながら、生物をつくっていくところを演示する。 ・　児童数名に発言させ、どのように表していきたいのかなど、全体共有することで、多様な考え方や表し方	

	る。	があることに気付かせる。	
展開35分	○　アルミ箔の特徴を生かし、想像した不思議な生物をつくる。 〔予想される児童の反応〕 □　まずは皿で型を取ってみよう。体の立体感が出せるかもしれない。 □　アルミ箔をくしゃくしゃにしたら、ごつごつした体のようになりそう。 □　アルミ箔を細くねじると、触角のようになった。 □　何か面白い形になってきた。生物の頭部に使おう。	・　布の張ってある場所なら、つくった生物をどこに貼ったり置いたりしてもよいことを伝える。 ・　授業者の演示を見せながら、一度壁面に貼っても剥がせることを伝える。 ・　友人との交流を促すために、特につくり始める場所は指定せず、好きな場所で活動してもよいが、友人と合作はしないように伝える。 ・　生物の表情については補助的に油性マジックペンを使用して表現してもよいことを伝える。	
	○　アルミ箔を変形させることでできる形のよさや面白さから、不思議な生物をどのようにつくるか考え、自分や友人が表した造形的なよさや面白さを感じ取り、自分の作品に生かして表す。 〔予想される児童の反応〕 □　○○さんの作品は、アルミ箔をねじってつなげて長く伸ばすことで銀色の蛇のようになっていて迫力がある。 □　いろいろな型を使って形をつくったり、しわを付けたりすると、本当に存在している生物のようになった。 □　○○さんの作品は、型を取ったり、それをつなげたり、細かい表情を付けたりといろいろな工夫をしている。どのような生物をイメージしてつくったのだろう。 「つくった不思議な生物の名前を考えてみよう。どのようなことができる生物かな。」	・　授業者はファシリテーター役となり、児童の工夫や新たな変形方法が出てきたら、状況を見て全体に伝えるようにする。 ・　表現に困っている児童には個別指導を行い、アルミ箔の変形方法を確認したり、友人の表現を参考にしてもよいことを伝えたりする。 ・　立体的な表現の工夫が見られる作品を取り上げ、全体に紹介することで、児童の製作意欲をさらに高めるようにする。 ・　机間指導をし、児童の活動している様子などから、形のよさや面白さ、表現の工夫を見取る。 ・　周りの友人同士で作品を見合うことで、互いの表現のよさや面白さに気付けるようにする。 ・　作品が完成した児童がいれば、製作した不思議な生物の名前や特徴などを考えるように伝えることで、イメージをさらに深めさせる。	イ①（活動の様子の観察・作品） ア①（活動の様子の観察・作品） ア②（活動の様子の観察・作品） ウ①（活動の様子の観察・作品） イ②（活動の様子の観察）
	・　本時の学習を振り返る。 〔予想される児童の反応〕	・　振り返りを通して、本時の目標に対しての実現状況等を確認する。	

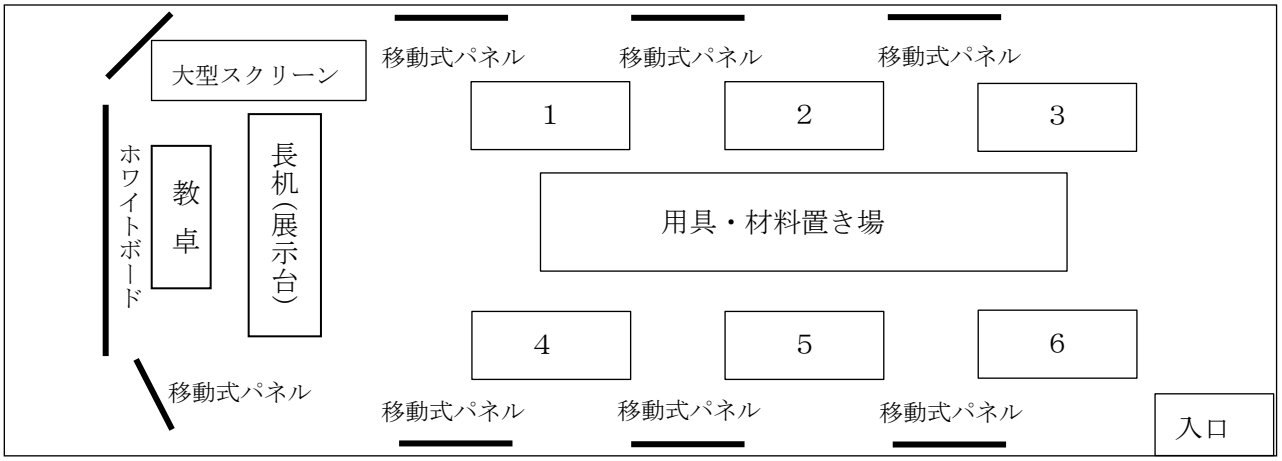
まとめ 10分	□　自分のイメージした生物に近付くように表現の工夫をすることができた。 □　アルミ箔だけでいろいろな形をつくることができた。 ・　片付けをする。	・　児童の作品を全体で見ながら、アルミ箔の特徴を生かしてつくることができたことを振り返る。 ・　児童数名に工夫したところを発表させ全体で認め合うようにする。 ・　次時は、作品の仕上げをした後「ふしぎ生物発見隊」と称した鑑賞会をすることを伝え、活動への意欲や期待をもてるようにする。	イ②(活動の様子の観察・発言)

（3）　板書計画



（4）　学習環境

体育館（※　体育館の一角に、下記のような図画工作室と同じ学習環境をつくる）



（5）　授業観察の視点

ア　前時の活動を大型スクリーンに映し出し、型を取る、ねじる、ちぎる、つまむ、丸める、やぶる、しわを付けるなどして変形させることができるアルミ箔の特徴について全体で振り返ることは、本時の活動をスムーズに行うのに有効であったか。

イ　材料置き場を活動場所の中央に設置したことは、友人との交流を促したり、友人の表現のよさや面白さに気付いたり、児童一人一人の表現を広げたり、創作意欲を引き出すのに有効であったか。

ウ　授業者がファシリテーター役となり、児童の活動状況を見ながら表現の工夫を取り上げて紹介することは、児童の発想や構想を広げるのに有効であったか。